資料１

ムーンショット型研究開発制度に係る
戦略推進会議の進め方等について

ムーンショット型研究開発制度の概要

○超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題に対し、人々を魅了する**野心的な目標（ムーンショット目標）を国が設定**し、挑戦的な研究を推進する制度。
○プロジェクトを統括する**ＰＤの下に、国内外トップ研究者が集結。ポートフォリオ**を構築、**ステージゲート**で柔軟に見直すと共に、スピンアウトも推奨。
○総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)、健康・医療戦略本部が目標を決定。
産学官で構成する**戦略推進会議を設置**し、関係府省や研究推進法人が連携。

達成すべきムーンショット目標

★目標１：2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現

★目標２：2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現

★目標３：2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現

目標４：2050年までに、地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現

目標５：2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出

★目標６：2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現

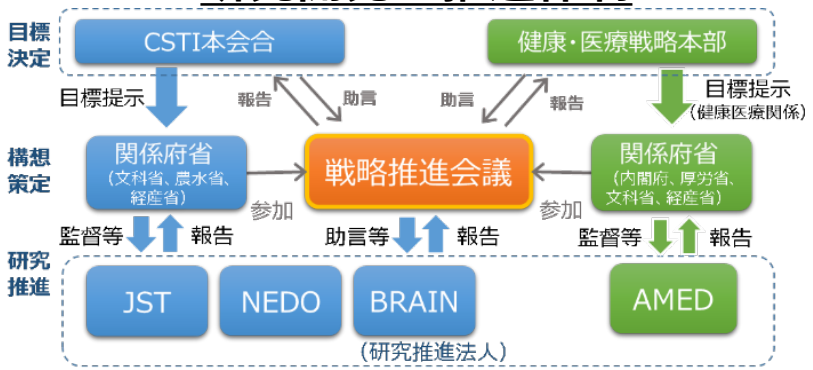
★目標７：2040年までに、主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステイナブルな医療・介護システムを実現

★目標８：2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現

★目標９：2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現

“Moonshot for Human Well-being”
（人々の幸福に向けたムーンショット型研究開発）

研究開発の推進体制



予算について(基金)

H30年度補正予算で1,000億円、R元年度補正予算で150億円を計上して基金を造成。令和３年度補正予算で800億円追加。最長で10年間支援。

	文部科学省 JST	経済産業省 NEDO	農林水産省 BRAIN	内閣府(AMED室) AMED
H30年度2次補正	800億円	200億円	-	-
R元年度当初	16億円	4億円	-	-
R元年度補正	-	-	50億円	100億円
R2年度当初	16億円	4億円	1億円	2億円※
R3年度当初	16億円	4億円	1億円	2億円※
R3年度補正	680億円	40億円	30億円	50億円
R4年度当初	29.6億円	4.8億円	1.6億円	3億円※
R5年当初予算案	29.6億円	3.8億円	1.6億円	3億円※

※文科省、厚労省、経産省

戦略推進会議について

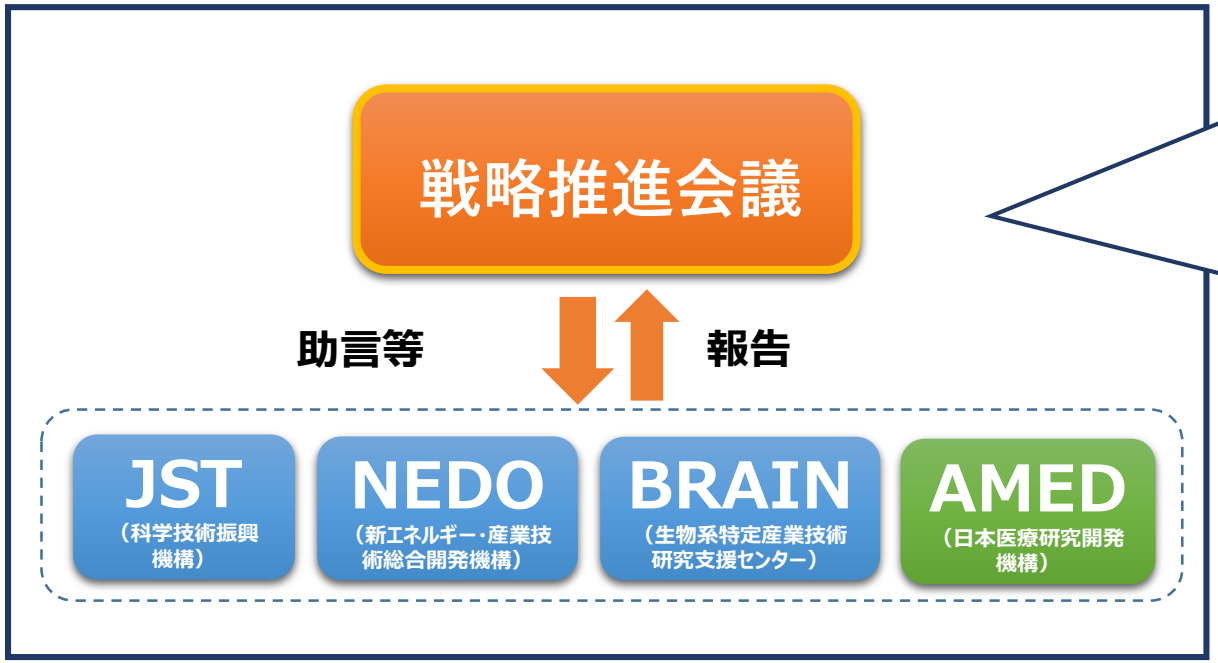
設置趣旨

研究開発の戦略的な推進、研究開発成果の実用化の加速、関係府省や関係研究推進法人の間の効果的な連携・調整を図るため、**産学官から構成される戦略推進会議を設置**。

役割

（１）原則として、毎年度、研究推進法人から進捗等の報告を受け、ムーンショット目標の達成に向けて、全体俯瞰的な視点から、**プロジェクト構成の考え方、資金配分の方針等に関して承認・助言**を行う。

（２）**研究開発成果の橋渡し、民間との連携、官民の役割分担を踏まえた適時の民間投資の呼び込みを含め、研究開発成果の社会実装に向けた方策を助言**するとともに、**研究開発成果の社会実装等に関する支援**を行う。また、国際連携を促進するための助言も行う。



【構成員】

産学の有識者、関係府省

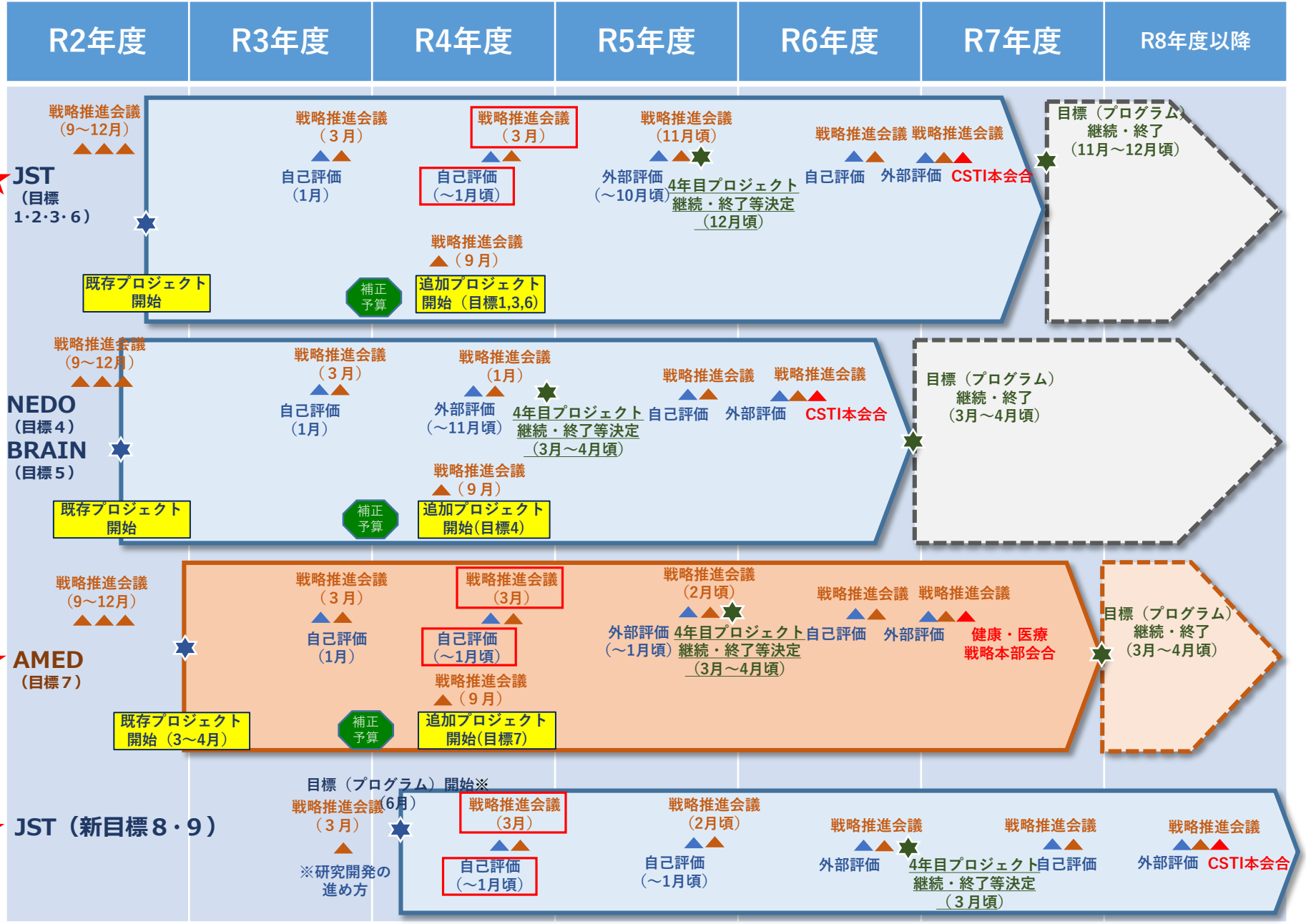
【助言等事項】

- プログラム構成の考え方
- 資金配分方針
- 社会実装等の方策
- 国際連携促進 等

【開催頻度】

年２～３回程度開催

戦略推進会議のスケジュールについて①



第８回戦略推進会議の進め方

ムーンショット型研究開発制度の運用・評価指針（抜粋）

○ 研究推進法人は、外部有識者による評価体制を構築し、外部評価を実施する。

○ 外部評価の実施時期は、原則として、研究開始時点から３年目及び５年目とし、５年を越えて継続することが決定した場合には、８年目及び１０年目とする。プロジェクトの特性に応じ、研究推進法人が評価時期を早める必要があると認める場合には、あらかじめ適切な時期を設定する。

○ 研究推進法人は原則として毎年度（外部評価を行う年度以外）、次項で定める評価基準を踏まえて自己評価を行い、その結果を戦略推進会議及び関係する構想を策定した関係省庁に報告する。その際、必要に応じて外部有識者の意見も聴くこととし、その場合には、併せてその意見の内容や自己評価への反映の状況を報告する。

第８回会議の議論

- 目標１、２、３、６、7は、研究開始から約２年が経過。JSTとAMEDが、２年目の自己評価を実施。
- 目標８、９は研究開始から約１年を迎える。JSTが１年目の自己評価を実施。

○JST及びAMEDから以下の事項について説明

- プログラムを構成する各プロジェクトの進捗
- プログラム（※）に対する、研究推進法人による自己評価（※各プロジェクトの評価を踏まえたプログラムの評価）
- 今後のプログラムの方向性　等

○JST及びAMEDに対して助言等

ムーンショット目標達成に向けて、全体俯瞰的な視点から、

- 研究開発の進捗、今後の進め方に関する助言
- 研究の成果の橋渡し、民間との連携等社会実装に向けた方策、国際連携の推進に関する助言
- その他、気づきの点に関する助言

ムーンショット型研究開発制度の運用・評価指針の概要（１）

ＰＭの採択基準

研究推進法人は、PDと協議の上、国内外からPMを公募し、原則複数のPMを採択する。この際には、総合的な視点から採択できるようにするため、外部有識者による評価体制を構築し、外部有識者の意見を聴くものとする。PMの採択にあたっては、以下の点に留意する。

＜PM採択の視点＞

・最先端の研究開発を推進するため、国内外の関連する研究者等の幅広い人的なネットワークや専門的な知識を有すること
・最適な研究開発体制を構築し、進捗状況等に応じて機動的に体制を見直す等のマネジメント力、リーダーシップ力を有すること
・PMから提案されたプロジェクトの目標や内容（以下「提案内容」という。）が、従来のものと比べ、より大胆な発想に基づくものかつ挑戦的なものであり、将来の産業・社会に大きなインパクトが期待される革新的なものであること
・提案内容の困難度は高いが、目標達成に向けた技術的なシナリオ（成功の仮説）を明確に説明できるものであること
・提案内容が国内外を問わずトップレベルの研究開発力や知識、アイデアを結集するものであること　等

外部評価視点

外部評価は主に以下の視点によるものとし、本視点に基づき、各研究推進法人は、関係府省と連携して、詳細な評価基準を別に定めるものとする。

＜プログラムに関する評価＞

・MS目標達成等に向けたポートフォリオの妥当性
・MS目標達成等に向けたプログラムの研究開発の進捗状況
・MS目標達成等に向けたプログラムの研究開発の今後の見通し
・PDのマネジメントの状況（ポートフォリオ管理、PMへの指揮・監督、機動性・柔軟性等を含む）
・産業界との連携・橋渡しの状況（民間資金の獲得状況（マッチング）、スピンアウトを含む）
・国際連携による効果的かつ効率的な推進
・大胆な発想に基づく挑戦的かつ革新的な取組
・研究資金の効果的・効率的な活用（官民の役割分担及びステージゲートを含む）
・国民との科学・技術対話に関する取組
・研究推進法人のPD/PM等の活動に対する支援

＜プロジェクトに関する評価＞

・MS目標達成等に向けたプロジェクトの目標や内容の妥当性
・プロジェクトの目標に向けた進捗状況（特に国内外とも比較）
・プロジェクトの目標に向けた今後の見通し
・研究開発体制の構築状況
・PMのプロジェクトマネジメントの状況（機動性・柔軟性等を含む）
・研究データの保存、共有、公開の状況
・産業界との連携・橋渡しの状況（民間資金の獲得状況（マッチング）、スピンアウトを含む）
・国際連携による効果的かつ効率的な推進
・大胆な発想に基づく挑戦的かつ革新的な取組
・研究資金の効果的・効率的な活用（官民の役割分担及びステージゲートを含む）
・国民との科学・技術対話に関する取組